東南アジアの自然と農業研究会

第 106 回研究例会のご案内

第 106 回定例研究会を開催いたします。今回は、北海道大学農学研究科の**山田 みちる**氏に下記のように報告していただきます。お忙しいことと思いますが、皆様の多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日　　時： 2002 年 6 月 28 日（金）午後 4 時～午後 6 時
会　　場： 東南アジア研究センター　東棟 2 階第 1 教室
京都市左京区吉田下阿達町 46
川端通り荒神橋東詰め
話題提供者： 山田 みちる　氏
話　　題： 「フィリピン ビコール地方における総合農協の存立条件と役割」

要　　旨： フィリピン農村は 20 世紀後半で急速に変化してきた。一般には、農地改革、「緑の革命」の進展が農村地帯の所得を向上させつつ、内部の変化をもたらしたとされている。

内部変化とは、一つは地主＝小作制の崩壊に伴う村落内の構造変化である。これまでの研究では、稲作農村では地主＝小作の利害関係が村落内の組織形成に影響して、共同体としてのまとまりを形成しないとされていた。これが、今日における農村部の協同組合の発展の阻害要因の一つとされている。しかし、フィリピン国内の貧困地帯とされるビコール地方のある農村では、商人＝地主勢力を廃した協同組合が成立し、村の発展に貢献している。このような逆説的構造はいかにして形成されたのか、その機能と役割について考察するのが本報告の目的である。

問い合わせ先： 富田晋介　京都大学農学研究科熱帯農業生態学研究室
Tel. 075-753-6352　mailto: tomita@kais.kyoto-u.ac.jp
柳澤雅之　京都大学東南アジア研究センター
Tel. 075-753-7345　mailto: masa@cseas.kyoto-u.ac.jp

ホームページ： http://rtomita.kais.kyoto-u.ac.jp/~sizen/